

【No.1】赤潮被害軽減に向けた赤潮対策 PT を発足しました!【担当:各研究部、企画情報室】

事業名:赤潮総合対策試験

概要:4月15日に、赤潮による漁業被害軽減を目的として、当センター内に赤潮対策 PT を設置し、同 PT の発足式を開催しました。また、今年度から、当センターの特別研究員として、(国研)水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所の元所長 板倉 茂博士を招へいしました。本PTにより、赤潮対策に係る試験研究を効率的・効果的に推進していきます。



写真① 赤潮対策 PT 発足式の状況



写真② 赤潮対策 PT 発足式の状況

【No.2】魚類養殖業者向けの研修会を開催しました!【担当:養殖研究部、企画情報室】

事業名:未来の漁村を支える人づくり推進事業、赤潮総合対策試験

概要:5月8日に、赤潮及び魚病発生時に適切に対応できる人材を育成することを目的として、養殖業の経験が浅い従業員等を対象とした赤潮・魚病研修会を天草広域本部と連携して開催しました。研修会では水産研究センター職員による講義のほか、先輩魚類養殖業者から養殖業を続けていく上で必要な知識や考え方等の講話をしていただきました。



写真③ 研修会の状況



写真④ 研修会の状況

【No.3】赤潮対策勉強会を開催しました!【担当:養殖研究部、浅海干潟研究部、企画情報室】

事業名:赤潮総合対策試験

概要:5月13日に、上天草市龍ヶ岳(大道)地区及び天草市御所浦地区の魚類養殖業者を対象とした赤潮勉強会を天草広域本部と連携して開催しました。当センターからは、赤潮対策PTの取組み概要や今年度のシャットネラ属の発生見通し等について説明を行いました。また、意見交換では、今年度水産研究センターが取組む珪藻を活用した有害赤潮の発生抑制試験や有害プランクトンに感染するウイルスを活用した赤潮駆除等について、板倉特別研究員を交えた活発な議論が行われました。



写真⑤ 勉強会の状況

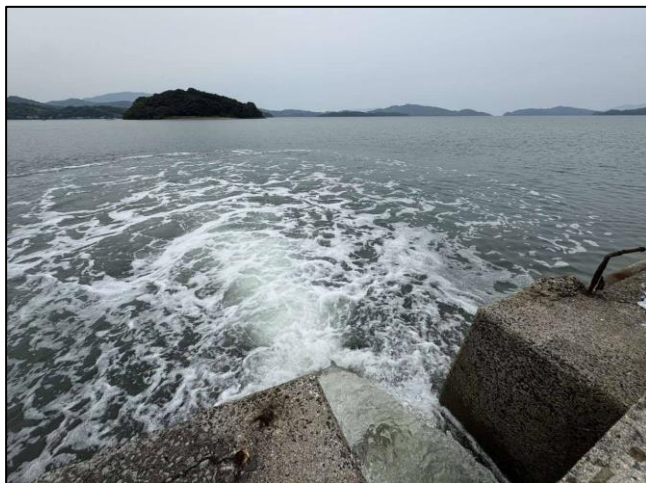


写真⑥ 勉強会の状況

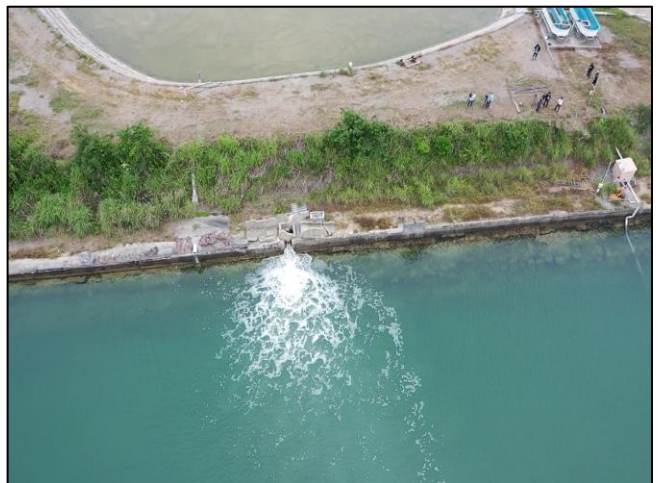
【No.4】赤潮抑制技術開発試験を開始しました!【担当:浅海干潟研究部】

事業名:赤潮総合対策試験

概要:浅海干潟研究部では、有害赤潮プランクトンの発生及び赤潮化を抑制する技術開発試験として、有害赤潮プランクトンと競合関係にある珪藻等のプランクトンをクルマエビ養殖池で増殖させ、放出する試験に取り組んでいます。5月29日には、第1回目の放出を行いました。今後は、6月下旬と7月下旬にも放出を行い、併せてその効果調査も行っています。



写真⑦ 放出状況



写真⑧ 放出状況(ドローン空撮)

その他取組み【No.5～No.8】

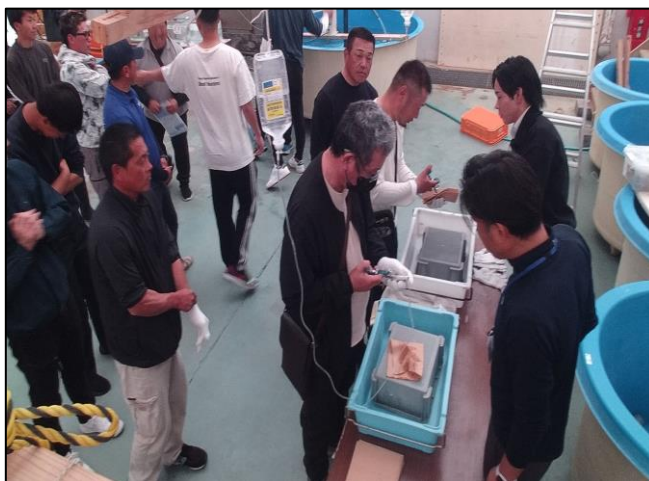
【No.5】養殖業者等向けのワクチン講習会を開催しました!【担当:養殖研究部】

事業名:安全安心な養殖魚づくり事業

概要:養殖研究部では、水産用医薬品の適正使用の推進のため、養殖業者等向けのワクチン講習会を開催しています。4月25日には、事故の防止や効果的なワクチン接種方法等について、講義及び実習を行いました。



写真⑨ 講習会状況(講義)



写真⑩ 講習会状況(実習)

【No.6】ヒトエグサの人工採苗を開始しました!【担当:食品科学研究部】

事業名:海藻類総合対策事業

概要:食品科学研究部では、ヒトエグサ養殖の安定生産のため、人工採苗網の生産効率化及び有効性の確認試験を行っています。今年の1～2月は水温が低かったため、葉体が成熟せず、例年より約1ヶ月遅い4月26日に、人工採苗網の作成に必要な播種(接合子の採取)に成功しました。今後は、9月以降の養殖業者への人工採苗網配付に向けての準備を進めていきます。



写真⑪ 播種の状況(接合子の採取)



※光刺激で雌雄の配偶子が放出され接合子となる(この部分をピペットで採取)

写真⑫ 播種の状況(接合子の採取)

【No.7】ブリ人工種苗を配付しました!【担当:養殖研究部】

事業名:ブリ人工種苗量産技術開発試験

概要:養殖研究部では、ブリ養殖業の持続的な発展のため、人工種苗の量産技術開発試験を行っています。4月には、令和6年度に生産した合計約1万尾の種苗(平均全長11.6~14cm、平均体重18.5~31.6g)を県内協力業者(2業者)に配付しました。今後は、定期的に魚体測定を行い、その後の成長性や生育状況を確認していきます。



写真⑬ 配付した人工種苗



写真⑭ 人工種苗の移送状況

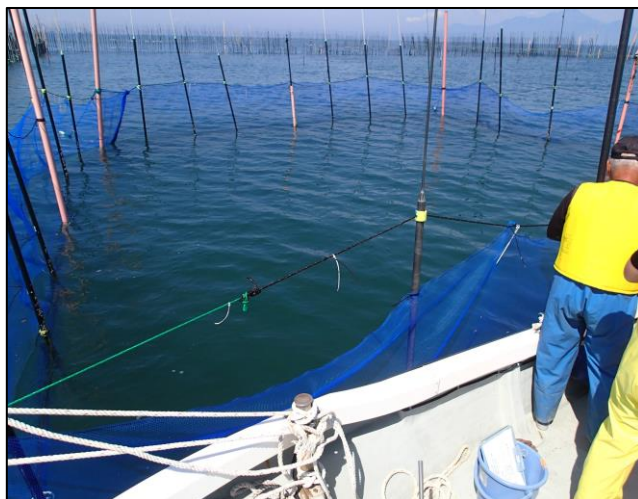
【No.8】クルマエビの種苗放流試験を行いました!【担当:資源研究部】

事業名:有明海・八代海再生事業

概要:資源研究部では、有明海の特産魚介類資源(クルマエビ、ガザミ)の回復に向けて、効果的な種苗放流試験を実施しています。5月に、熊本市川口地先及び宇土市網田地先において、クルマエビ(平均体長14mm以上、尾数計約150万尾)を放流しました。熊本市川口地先の放流では、囲い網を用いた食害防止の効果を調査するため、親が異なる2群の種苗を囲い網の内外に分け、それぞれ放流しました。今後は、採捕されたクルマエビのDNAを調べ、囲い網による食害防止効果を調査していきます。



写真⑮ 放流したクルマエビ



写真⑯ 囲い網内への放流